



平成 24 年 №39  
はつはる号

# あきばさん

発行所  
秋葉山 新井寺  
272-0144  
千葉県市川市新井  
1丁目9の1  
でんわ047-357-8319  
FAX 047-357-8399  
mail: info@shinseji.jp  
http://www.shinseiji.jp  
郵便振替 00150-2-282968  
発行人 新井寺

## 年頭のごあいさつ

### 当山住持

平成二十四年の年頭にあたり、當寺檀信徒の皆様、當寺秋葉講中の皆様、さらに有縁無縁の信心の願主 皆様の福寿ご多幸を祈念申し上げます。

昨年三月十一日、日本列島は、誰しも決して忘れることができない未曾有の大震災、「東日本大震災」に見舞われました。大勢の尊い命が喪われ、大変な被害を受けられました。被災された皆様に、衷心よりお見舞いを申し上げます。私共は、同じ「日本人」として、「人間」として、これからも物心両面にわたってできる限りの支援を続けていかねばなりません。さて、昨年十二月、地元 新井（あらい）小学校二年生の子どもたち約百名が、社会科授業の一環として當山に勉強に

来られました。お寺の歴史・地域社会におけるお寺の役割などをわかりやすく、親しみをこめてお話し申し上げます。なかでも子どもたちは、「日常生活を通じて『おかげさまで』、『ありがとう』と言うように言われるように」と

いう「感謝の心」のお話に、大変関心をもったようです。私共の信仰の世界の基本は「ご先祖さま」です。ご先祖さまがあつて、私共が生かされています。「いのち」をいただき、生かされているものの「感謝」の気持ちの報恩行が、「供養」というかたちになって、日常生活に活かされています。お釈迦さまの教えは、しあわせと平和にむかつて「ありまえ」のことをあたりまえに、正しく行なうことです。まずは、「おかげさまで」という感謝の気持ちをもって、『ありがとう』と言うように、言われるように、家族中がお互いにま心をこめて実行し、家族の「和」が深く保たれますよう念じてやみません。どうぞ、ご精進ください。本年も、よろしく願います。お互いによい年でありますように。

# あけましておめでとうございませ 今年もよろしくお願いいたします

掌てを合わせるということ

山本崇文



大本山永平寺 上山  
平成5年3月1日22歳

近年この日本で、昨年ほど「合掌」された方が多かった年はなかったのではないかと思えます。願い・祈り・感謝が、それだけ多かった年であったということ。安否・冥福・思い出……。被災地の人々が掌を合わせるその姿は、日々 日常の生活の中では見たことのないものでありました。おかげさまで・ありがとうございます・いただきます・ごちそうさまでした・お願いいたします・ごめんなさい。

どうか……。でありますように。掌てを合わせる機会は、日々 いたるところであります。思い念ずる時、その合掌の姿に現れます。

掌を合わせるということは、その形も大切ですが、形だけではないけないということ。同様に大事なものは、「思い念ずること」。今、その時の思いや願いは大きければ大きいほど、その場に留まります。被災地の方々は、未だこの大きな思いや願いと相対(あいたい)していません。しかし、日常 我々は新たな現実を目の前にして、人は良くも悪しくも、あった出来事の思いから少しづつ離れていきます。ただし、掌を合わせる正(まさ)にその時は、今この思い、そして離れなかったことを思い起こし振り返り、掌も、思いも目の前で重ね合わせる瞬間なのです。このことこそ、これからの願いや実現へと結びついていくのだと考えます。

新年を迎え、姿勢を正し、このことを思い念じ、目の前で掌を合わせ、日々合掌。  
合掌

(野田市 浄禅寺住職・戊どし)

万理一空の境地

佐久間紘道



大本山永平寺 上山  
平成12年3月1日19歳

「Dont Live to eat, but eat to Live.」(食うために生きるにあらず 生きるために食うなり) "イギリスの格言" この言葉は、世界共通の「生き方を求める一生涯の課題のように思う。  
「生きるために食う」に同感する人は多いと思うが、では、「生きるとは何か?」という疑問も生じてくる。私はそんな「面倒なことは考えない」と知らんぷりをしていても、日常生活の様々な場面において自問自答を強いられる。

私達は食事のまえに「いただきます」と掌を合わせる。曹洞宗にも食事(じきじ)作法なるものがあり、その作法にのっとりて食事を頂戴する。そこで、お唱えする「五観の偈」の最後には、「成道の為の故に今此の食を受く」と記されている。

「仏教の理想を達成し、衆生救済の生活ができるように、身心ともにすこやかに、仏の道を成ずるためにこの食事を受ける」という誓願、菩薩道の実践と受けとめている。

「食べること」は、身心への栄養を摂取するためであり、生きるための手段にすぎない。しかし、私達は食べることによって生きている。一日に三回食べていると、一年では千回を超える。これだけ沢山繰り返す営みは、他にはあまりない。つまり、どのようにに食事をしていくかが、その人の行動の仕方や人間性に影響を及ぼし、そして、日頃の食生活の食べ方から「生きる」を学ぶことができるかと考える。

限りある命を悔いのないように生きることを目指し、毎日の食事(いのち)を「ごつつあんです」といただきたい。

(市原市 永徳寺住職・西どし)

祈りをこめて念ずれば

松井純照



富山専門尼僧堂 上山

平成 13 年 7 月 26 日 27 歳

お陰さまで平成二十四年を迎えることができました。昨年は、当たり前前にとくと思っていた安穏な日々が実はとても奇跡的なことであり、とても脆いものであり、人間の力は無限ではないことを痛感させられた一年でした。そして、つらい時、困った時、人の力を超えたことが起きた時、坂村真民さんの詩

念ずれば 花ひらく

苦しいとき 母がいつも口にしていた  
このことばを わたしも いつのころ  
からか となえるようになった  
そうして そのたび わたしの花が  
ふしぎと ひとつひとつ ひらいて  
いった

をよく思い出し、ただひたすらに念じ、

祈りました。すると詩のように物ごとが好転し、何度も助けられることがありました。

今年辰年。龍は、仏教に縁の深い動物です。お袈裟や仏具、天井画等に描かれ、仏教説話にも多く登場します。

曹洞宗には「龍天護法大善神(りゅうてんごほうだいぜんじん)・白山妙理大権現(はくさんみょうりだいこんげん)」と書かれた「龍天軸(りゅうてんじく)」という軸があります。この仏法の護り神である軸の前で日々、修行の無事と成就を願います。また、お正月には師匠様の健康と長寿を祈念してお餅を供え、読経をする習わしがあります。

思えば古来より、人は祈りを捧げ、大地を鎮め、作物の豊作を願い、自らの心願成就等をしてきました。いつの時代でも変わらぬ畏敬の念を込めた祈りは、人間に与えられたエネルギーの礎であり、「こころのお守り」ではないでしょうか。虎口は逃れても龍穴に入ってしまうことのないように、祈りに値する日々を送る。もしもの時は、画龍点睛の祈りを念じられるような一年をめざして、今年もよろしくお願ひします。

(瓏仙院守塔・寅どし)

更に一層の楼に登る

松井量孝



愛知専門尼僧堂 上山  
平成 15 年 4 月 23 歳

昨年の暮れ、階段ですべって尻てい骨に「ひび」が入ってしまった。病院でレントゲンを見ながら、何をそんなに急いでいたのだろうかと思いましたが。いつからこんなにせつかちになったのだろうかと考えていました。

千里の眼を窮めんと欲して  
更に一層の楼に登る

尼僧堂で修行中、自分で縫った絡子(らくし)に堂長老師に書いていただいたことばです。このことばに、いつのときも向上の一路を目指し、終わりなき「はるかなる仏道」に精進していくことを学びました。最近の自分を振り返ってみると、力いっぱい走ることばかりを考えていました。それが、「向上の一路に精進すること」だと思っていたのです。けれども、力いっぱい走りすぎているが

故に、前のめりになってしまっ、「いまここ・このこと」に、大地に脚が着けなくなっていたような気がします。さらには、景色をみる余裕もない。人の声に耳を傾ける余裕もない。周囲に心をくばる余裕もない。何ごとにも「いっぱいいっぱい」に生きていたのかもしれない。坐禅でいえば、「調息(ちようそく・呼吸を調えること)」

が足りなくなっているのだと思います。どんなときも力いっぱいに走ることが、間違いだとは思いません。それだけでは、足りないのだと思います。さらに大事なことは、「ひと呼吸おく」ということなのだと思います。それが、いまのわたしが学ぶ「更に一層の楼に登る」ということなのかもしれない。ひと呼吸おいてゆったりと構え、より高きところから全景をながめることで、力いっぱい疾走することばかりを考えていた自分には気づくことができなかつた何かが見えてくるような気がします。

身を調(ととの)え、呼吸を調(ととの)えろということとは、どういうことなのか、改めて考えてみようと思います。そして、何ごとにも、「ひと呼吸おく」ということを今年のテーマにしたいと思います。本年もよろしくお願いいたします。

(当山 副住職・編集小子・未どし)

庫裏が完成しました

おかげさまで、暮れに、庫裏が完成しました。これからは、お線香やご法事のお申し込みなど、もろもろの受付は、以前同様、庫裏の玄関にて行ないます。

お知らせしていただきました通り、玄関には、ささやかながら檀信徒のみなさまとのコミュニケーションホールをつくりました。どうぞ、お気軽にお立ち寄りください。



「ネパール旅行」延期のおしらせ

昨年「秋ひがん号」でお誘いいたしました「ネパールへの旅 サパナさんとスニタさんに会いに行こう」は、本年秋ころに延期することになりました。楽しみにして下さっているみなさま、どうか、いましばらくお待ち願います。詳細は、決まり次第ご案内申し上げます。

しんせいじの月例行事

日にちはおたずねください

日曜坐禅会 (月一回 午後三時)

写経会 (月一回 午前十時)

梅花講 (月二回 午後一時半)

どなたでも・いつからでも参加できます

ご参加をお待ちしています